

(3) 田辺市における防災教育に関する取り組みの紹介

寺本 行雄 (田辺市防災教育担当者会 会長)

私の勤務している学校は、この場所のすぐ下にある明洋中学校です。近くにはナショナルトラスト運動の発祥の地であり「天神崎」があり、自然にいっぱい囲まれたとても過ごしやすい快適な学校です。その一方で、12年前には台風による高潮で床下浸水したまわりの住民が、明洋中学校へ避難するという事もありました。そういう地域で防災教育をおこなっています。

田辺市の防災教育の簡単な概要を説明したいと思います。

当地方でも、近い将来予想される東南海地震への対応ということで、以前から学校ごとに防災の授業はしておりました。ですが、東日本大震災の発生や台風12号によって大きな被害を受けたことを契機に、市行政や教育委員会も力をいれてくれることになりました。そして、防災教育担当者会を立ち上げることになり、私たち各学校の教師がそれを担当することになりました。

先ほど教育長からもありましたが、新庄中学校は15～16年前の総合的な学習の時間が始まった頃から「新庄地震学」を開始し、すごく発展した内容の学習をしています。今日のパネルディスカッションや、明日の現地学習などで紹介があると思いますが、田辺市で一番進んだ取り組みをしている学校だと思います。また、NHKのシンサイミライ学校などの取り組みの中で、小学校の各家庭で避難訓練を行ったり、中学校で釜石市を訪問するというような学校もあります。しかし、多くの学校は「防災教育担当者を決めろ」となった時点で、年間カリキュラムを作成して取り組もうというかたちになったのが本当のところだと思います。

1. 田辺市は大変広い地域なので、海に近い“沿岸部”、山の中の“山間部”、川が流れる“中山間部”と三つに分けました。被害としては、沿岸部は当然のように津波もありますけれど、台風の高潮もあります。中山間部は水害・浸水があります。そして山間部は土砂災害があり、台風12号のときは山崩れが発生しました。そのため、三つに分けて、計画をつくることを考えました。そして、まずは自分の学校を見直してみようじゃないかということで、一年目は各学校の取組内容をまとめました。



寺本 行雄先生

田辺市防災教育担当者会の取組

沿岸部ブロック	11校
中山間部ブロック	10校
山間部ブロック	22校

平成25年度
・防災教育実践集録の作成

平成26年度
・防災教育の手引きづくり

平成27年度
・防災教育の手引き完成
・研究授業の実施



2.私たちの地域にはたくさんの学校があり、職員は約 700 人います。一年目の取組から、防災教育担当者の先生や、いろいろな準備をしている学校は熱心だけれども、まだまだ取り組めていないところについては、手探り状態だということがわかりました。特に感じたのは、何かをするための資料があまりないということです。私たちは 3 年前、片田教授と初めてお会いしたときに釜石を訪問しました。その後、帰ってきてすぐに“釜石の奇跡”という NHK のアニメを見ました。その中で、小さい小学生が「なんで逃げたの？」という質問に対して、「いつも先生から恐ろしい津波の映像を見せられてこんなときは逃げなくてはいけない。今回はそれに匹敵するようなすごい揺れだったから私たちは逃げた。」というような発言がありました。ですから、私たちもそのような津波の映像を見せてやりたいなと思いました。授業一、二回分くらいはどこかにあるのですが、3 年間のカリキュラムとなるとなかなか難しいということで、そこら辺を中心として考えることになりました。具体的には、沿岸部・中山間部・山間部のそれぞれで、中学校では 1・2・3 年生、小学校では低学年・中学年・高学年とわけて、指導案というか授業のサンプルとなるような計画をつくることになりました。現在、ある程度出来上がりました。三つの地域の小中学校を合わせると約 60 くらいの指導案ができます。今年の秋には、その指導案に基づいて研究授業を行う予定です。

3-5.平成 23 年の台風 12 号の水害について少し見てもらいたいと思います。本宮地域では 2 週間で 2,000mm の雨が降ったそうです。この雨によって土砂崩れが発生しました。写真は山崩れの様子です。

6.田辺市内の伏菟野です。崩れた地域の方によると、土砂崩れは普段あまり起こらなかったような地域でも起こっていたそうです。

7.本宮の水害です。本宮もひどい被害でしたが、隣の新宮市熊野川町辺りが一番ひどい被害でした。

8.大塔川の氾濫で小学校に水が入ってくる様子です。

9.最終的には浸かってしまったグラウンドの様子です。

10.本宮小学校の一階は写真のようになってしまいました。

11.台風の被害をしたときに中学生がおばあちゃんの話し相手をしている様子です。

12.私たちの防災教育担当者会の研修会の様子です。

(成果)
 ・手引きづくりを通して、防災教育担当者の意識が少しずつ高まっている。

(課題)
 ・教職員の防災教育に対する意識の温度差。
 ・保護者、地域との防災に対する連携。
 (中山間部、山間部)

地域の方と街を歩く



地域の方と一緒に考え作成



江川町内会



避難マップ

校内屋上へ

避難訓練



園児の手を引いて高台へ **二次避難、校外の高台へ**

13.成果は少しずつ意識が高まってきたことです。課題は意識の温度差とありますが、これも埋まりつつあるのではないかと考えております。以下に地域と連携した防災教育の取組をいくつか紹介します。

15-18.西部地域共育コミュニティ本部は小学校・中学校・公民館・幼稚園が参加しており、活動しています。

19-22.各学校の避難訓練の様子です。

23.中辺路中学校は、校舎は高台にあります、下にある幼稚園の子たちを連れに行き避難する訓練もしています。

24-25.シンサイミライ学校を行った高雄中学校です。避難訓練では学校から一番近くにある避難所に避難しているのですが、津波が来たら地域の人でいっぱいになってしまうのではないかと、という課題が見つかったそうです。

26.東陽中学校です。近くにある小学校や保育所と合同で訓練した様子です。

27.山間部での防災講演会の様子です。

私は町内会の避難訓練の反省会に参加しました。そこでは訓練の参加人数が少なかったため、「呼び掛けないといけない」という意見がでました。一方で、「呼び掛けないと来ないようじゃダメだ」「呼び掛けないと来ないようじゃ意識が足りない」という意見もでていました。また、地域の方からは、「やっぱりお年寄りも動かんわ」「子どもが連れてあがってくれるようなそういう教育をしてくれよ」というようなことを言われました。確かにその通りだと思いましたので、これからの小学校・中学校における防災教育は大切だと考えています。これで、田辺市防災教育担当者会の報告とさせていただきます。

